

# 日本気象学会 2019 年度春季大会

## 出展・リクルートブース開設・協賛企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり，以下の企業・団体からご出展・リクルートブースご開設・ご協賛を頂きました  
(2019 年 3 月 18日現在；50 音順)．厚く御礼申し上げます．

アプライド株式会社\*+

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構\*

英弘精機株式会社\*

株式会社気象工学研究所+

気象情報通信株式会社+

クレイ・ジャパン・インク

クロスイメージング株式会社+

株式会社工学気象研究所+

株式会社構造計画研究所+

サイバネットシステム株式会社\*

三報社印刷株式会社

全日本空輸株式会社

株式会社ソニック+

東京大学出版会\*

トーテックス株式会社

株式会社日本エレクトリック・インスルメント\*+

日本海洋事業株式会社+

日本気象株式会社\*+

一般財団法人日本気象協会\*+

株式会社ニューテック\*

ビジュアルテクノロジー株式会社\*

株式会社プリード\*

明星電気株式会社\*

株式会社ライフビジネスウェザー

(五十音順)

\*は会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です．

+は会場内に併設されるリクルートブースを設ける予定の企業・団体です．

# 日本気象学会 2019 年度春季大会

会期：2019年5月15日（水）～5月18日（土）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
〒151-0052

東京都渋谷区代々木神園町 3-1 <https://nyc.niye.go.jp/>

大会実行委員会担当機関：東京大学大気海洋研究所

大会委員長：木本 昌秀（東京大学大気海洋研究所）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（国立オリンピック記念青少年総合センター409会議室）  
TEL: 04-7136-8141（大会期間中のみ有効）  
※取次ぎ等はいたしませんのでご了承ください。

## 交通の案内：

小田急線より

新宿駅より各駅停車 約3分

参宮橋駅下車 徒歩約7分

地下鉄千代田線より

代々木公園駅下車（代々木公園方面4番出口）徒歩約10分

京王バスより

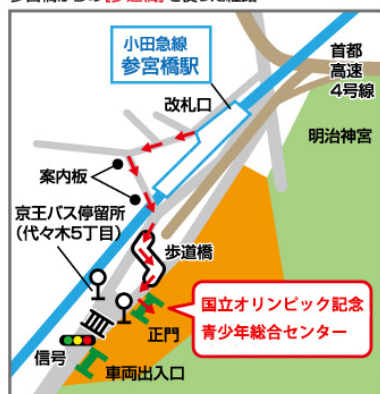
新宿駅西口（16番）より 代々木5丁目下車

渋谷駅西口（40番）より 代々木5丁目下車

## 会場案内図



参宮橋からの【歩道橋】を使った経路



参宮橋からの【横断歩道】を使った経路



# 大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟4F) 総会・記念講演・シンポジウム: 大ホール (カルチャー棟)  
 B会場 : 309 会議室 (センター棟3F) 受付 : 416 会議室 (センター棟4F)  
 C会場 : 310 会議室 (センター棟3F) 大会事務局 : 409 会議室 (センター棟4F)  
 D会場 : 311 会議室 (センター棟3F) 懇親会 : レセプションホール (国際交流棟)  
 ポスター会場 : 401・402・403・405 会議室(センター棟4F)  
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

( ) 内は講演数と講演番号

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月15日 (水)	10:00～ 11:30	気候システムⅠ (6, A101～A106)	中高緯度大気 (4, B101～B104)	観測手法Ⅰ (6, C101～C106)	専門分科会 「気象庁データを利用 した気象研究の現状と 展望」 (4, D101～D104)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (35, P101～P135)			
	13:30～ 17:00	降水システムⅠ (13, A151～A163)	物質循環システム (5, B151～B155)  15:15～ 中層大気 (5, B156～B160)	専門分科会 「ひまわり8・9号がも たらす新しい気象学と、 後継衛星への期待」 (13, C151～C163)	専門分科会 「東アジアで近年発生 する極端現象に対する 地球温暖化の寄与とそ の将来予測」 (13, D151～D163)
5月16日 (木)	09:30～ 11:30	降水システムⅡ (8, A201～A208)	気候システムⅡ (8, B201～B208)	気象予報Ⅰ (8, C201～C208)	大気境界層 (8, D201～D208)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (34, P201～P234)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞, 藤原賞, 岸保・立平賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月17日 (金)	09:30～ 11:30	降水システムⅢ (7, A301～A307)	気候システムⅢ (8, B301～B308)	気象予報Ⅱ (8, C301～C308)	大気力学 (7, D301～D307)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (34, P301～P334)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「多重階層システムとしての気候の研究」			
5月18日 (土)	09:30～ 11:30	熱帯大気・台風Ⅰ (6, A401～A406)	気候システムⅣ (7, B401～B407)	気象予報Ⅲ (8, C401～C408)	雲物理 (8, D401～D408)
	11:30～ 12:30	ジュニアセッション			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「新元号を迎えて～平 成の30年を振り返り、 新時代の気象災害に備 える～」	熱帯大気・台風Ⅱ (13, B451～B463)	観測手法Ⅱ (13, C451～C463)	専門分科会 「GEWEXアジアモン スーン水文気候学研 究の新しい挑戦」 (10, D451～D460)

発表件数 : 299 件 (専門分科会 40, 一般口頭発表 156, ポスター103)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について ([http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ\\_kitei\\_copyrightpolicy.pdf](http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf))」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所内 講演企画委員会 (E-mail: kouenkikaku2019s@mri-jma.go.jp) まで

## 講演の方法

### 一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 14 分 (講演 11 分・質疑 3 分) です。
- ・ 専門分科会の発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- ・ 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
  - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクター、VGA ケーブルおよび HDMI-VGA 変換アダプタを準備します。VGA (ミニ D-sub15 ピン)、あるいは HDMI (フルサイズ) コネクタを装備した PC が使用できます。
  - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
  - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとる

ことがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

### ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦 150 cm×横 180 cm 程度となっています (ただし、足元からパネルが立ち上がる点に注意)。
- ・ ポスターの掲示には画紙のみが使用できます。画紙は会場に用意されています。
- ・ ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守をお願いします。
  - ✓ 第 1 日の発表者は 5 月 15 日 09:30～17:30
  - ✓ 第 2 日の発表者は 5 月 16 日 09:00～17:30
  - ✓ 第 3 日の発表者は 5 月 17 日 09:00～17:30
  - ✓ 第 4 日の発表者は 5 月 18 日 09:00～13:00
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

## 保育施設の紹介について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の紹介と、施設利用費用の一部補助を行います。紹介する保育施設は下記の通りです。

### 保育施設 「セルリアンタワーポピズキッズルーム」

住所 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町26-1

セルリアンタワー東急ホテル3F (渋谷駅徒歩5分)

TEL: 03-5728-1377 FAX: 03-5728-1377

<https://www.poppins.co.jp/nursery/cerulean.html>

完全予約制のため、利用希望日の 1 ヶ月～2 日前までにご予約ください。3 日前まではご予約・お問い合わせフォームにて予約、2 日前の場合は電話でのお問い合わせをお願いします。保育対象年齢は、生後 57 日から就学前までです。また、学会からの保育補助は

下記の保育支援ガイドラインに則ります。

[http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare\\_support\\_guideline.pdf](http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare_support_guideline.pdf)

上記は情報提供のみであり、保育施設への申し込みは直接利用者個人で行ってください。補助の申請は事前に気象学会事務局・下記担当者へ 5 月 8 日 (水) までにご連絡下さい。

他の施設を利用される場合にも同様の方法で補助を行います。保育施設の利用を検討されている方は、お気軽に担当者にお問い合わせください。

連絡先 気象学会事務局

E-mail: [chief@metsoc.jp](mailto:chief@metsoc.jp)

TEL: 03-3216-4403

## 大会実行委員会からのお知らせ

本大会では、前納受付者には事前に大会参加票と「日本気象学会 2019 年度春季大会ハンドブック・シンポジウム要旨集」を郵送します。前納受付者は大会参加票を持参のうえ、そのまま会場へお越しください。前納受付者で大会参加票を破損・紛失した方、および懇親会を当日新たに申し込まれる方、ならびに当

日受付者は、大会受付までお越しください。当日参加者への予稿集の配布用に USB メモリを用意しますが、混雑防止のため、できる限り予めダウンロードしてからお越しください。なお、施設には無料 WiFi サービスはありません。

# シンポジウム「多重階層システムとしての気候の研究」

日時：2019年5月17日（金）（大会第3日）13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：高藪 縁（東京大学大気海洋研究所）

※シンポジウムの聴講は無料です。一般の方も参加できます。

## 趣旨：

気候は、雲や乱流の微物理から地球をめぐる大気海洋の大循環、雪氷や植生まで、非常に幅広い時空間スケールの現象によって幾重にも階層化したシステムとして成り立っています。気候の研究は、そのリンクのひとつひとつを解説したり、それらを総体としてモデル化したりする作業ともいえます。本シンポジウムでは、このような「多重階層システムとしての気候の研究」について、様々な専門分野で第一線に立つ講師陣に、最新の科学的知見や取り組み、および、将来展望についてご講演いただくことを計画しました。この機会に、会場の参加者の皆さまと一緒に気候の研究について様々な側面から議論することができれば幸いです。

## プログラム：

- 「今後10年の気候研究の課題と展望」  
木本昌秀（東京大学 大気海洋研究所）
- 「地球温暖化時代の気候研究」  
三枝信子（国立環境研究所 地球環境研究センター）
- 「雲と雨のマルチプラットフォーム観測」  
高橋暢宏（名古屋大学 宇宙地球環境研究所）
- 「マイクロスケールと気候スケールの研究の連携可能性」  
伊藤純至（東京大学 大気海洋研究所）
- 「熱帯域成層圏-対流圏結合系における多階層連結過程」  
余田成男（京都大学 大学院理学研究科）

総合討論

---

## 総会

日時：大会第2日（5月16日）13:30～15:20

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
大ホール（カルチャー棟）

### 議事次第

- 開会
- 議長選出
- 理事長挨拶
- 2019年度日本気象学会賞授与
- 2019年度藤原賞授与
- 2019年度岸保・立平賞授与
- 2018年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与報告
- 議事
- (1) 2018年度事業報告
- (2) 2018年度決算報告
- (3) 2018年度監査報告
- 報告
- (1) 2019年度事業計画
- (2) 2019年度収支予算
- (3) その他
- 議事録署名人の指名
- 議長解任
- 閉会

---

## 専門分科会の概要紹介

### 気象庁データを利用した気象研究の現状と展望

日時：2019年5月15日（水）（大会第1日）10:00～11:30

場所：D会場

趣旨：気象庁と気象学会との包括的共同研究契約である「気象研究コンソーシアム」が締結されて11年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実

況解析、各種数値予報データなどの気象庁モデルの出力データのみならず、海面水温解析値や気象衛星ひまわり8号データなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ、気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています。

本分科会では、

- (1) 数値予報の出力データを利用した研究

(2) 気象衛星ひまわり 8 号データなど新しい観測データをを用いた研究

(3) 数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究

などに関する講演を募集し、気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します。なお、本分科会への講演申込には、コンソーシアムへの参加の如何は問いません。

**世話人：**坪木和久（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、余田成男（京都大学大学院理学研究科）、石田純一（気象庁予報部数値予報課）、長谷川昌樹（気象庁総務部企画課）

### ひまわり 8・9 号がもたらす新しい気象学と、後継衛星への期待

日時：2019 年 5 月 15 日（水）（大会第 1 日）13:30～17:00

場所：C 会場

**趣旨：**2014 年 10 月に打ち上げられた「ひまわり 8 号」は、それまでの静止衛星と比べ大幅に機能が強化され、台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視に加え、エアロゾルや海面水温、海氷、植生、火山灰などの詳細な監視やデータ同化などに用いられ、防災・気象情報の高度化に大いに貢献するとともに気象学においても新しい知見をもたらしつつある。さらに気象庁では、この「ひまわり 8 号」およびその同型衛星である「ひまわり 9 号」で得られた知見や国際的動向を踏まえながら、イメージャのみならずサウンダや雷光センサー等の有効性や搭載可能性を含めて、次の衛星についても議論を開始した。

本大会では、「ひまわり 8・9 号」の利用成果やプロダクト開発、データ提供、校正・運用等について情報を共有するとともに、後継衛星への期待や、サウンダや雷光センサーの活用の可能性等についても幅広く議論していきたい。

**世話人：**岡本幸三（気象研究所）、中島孝（東海大学）、本多嘉明（千葉大学）、増永浩彦（名古屋大学）、岩淵弘信（東北大学）、別所康太郎（気象庁観測部）

### 東アジアで近年発生する極端現象に対する地球温暖化の寄与とその将来予測

日時：2019 年 5 月 15 日（水）（大会第 1 日）13:30～17:00

場所：D 会場

**趣旨：**地球温暖化の進行に伴い、将来、猛暑や強雨、強い台風の増加、積雪の減少等が指摘されている。2018 年は、冬の寒波、夏の豪雨や猛暑、非常に強い勢力の台風の上陸等、異常気象が多発した。異常気象やそれに伴う極端現象は様々な自然変動の影響を受けて発生するが、地球温暖化が寄与した可能性もあり、研究の進展が求められている。そこで本専門分科会では、日本を含む東アジアで生じる極端現象に対する過去から将来に渡る人為起源地球温暖化の影響について、様々な視点から議論する。降水・気温等の頻度変化や、梅雨前線、台風、ストームトラック、Atmospheric River、海洋との相互作用等の極端現象を引き起こす要因の変化について、過去データの統計的解析、大規模アンサンブル、高解像度全球モデル・領域モデルによるダウンスケール実験、個別の異常気象に対する Event Attribution 等様々な手法による研究を期待する。

**世話人：**川瀬宏明（気象研究所）、佐藤正樹（東京大学）、今田由紀子（気象研究所）、釜江陽一（筑波大学）、佐藤友徳（北海道大学）、竹見哲也（京都大学）、森正人（東京大学）、山田洋平（海洋研究開発機構）

### GEWEX アジアモンスーン水文気候学研究の新しい挑戦

日時：2019 年 5 月 18 日（土）（大会第 4 日）13:30～17:00

場所：D 会場

**趣旨：**GEWEX（Global Energy and Water Exchanges）のもと GAME、MAHASRI と続けられてきたアジアモンスーン水文気候学研究の新しい枠組み（Post MAHASRI プロジェクト）が立ちあげられようとしている。Post MAHASRI プロジェクトは、アジア域の陸面過程のインパクトと降水過程、スケール間相互作用の解明を焦点に、季節内から数十年スケールの変動と気候変動予測の改善に資することを目指す。今回の専門分科会では、アジアモンスーン研究への多様な科学的アプローチや問い、2020 年に予定されている統合観測モデリングイニシアチブ Asia Monsoon Year (AMY)-II への展望を交流する。

**世話人：**寺尾徹（香川大学）、鼎信次郎（東京工業大学）、松本淳（首都大学東京・海洋研究開発機構）

---

## 公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です。詳しくは公開気象講演会参加登録のページ (<http://www.metsoc.jp/?p=5906>) をご覧下さい。参加は無料です。

日時：2019年5月18日（土）（大会第4日）  
13:30～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
セミナーホール417（大会A会場）

テーマ：「新元号を迎えて～平成の30年間を振り返

り、新時代の気象災害に備える～」  
主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会  
後援：一般社団法人日本気象予報士会

**趣旨：**日本気象学会 2019 年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最新の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。

今回は「平成 30 年間の振り返り」をテーマとして取り上げます。平成の時代を振り返ると、科学技術の発展による観測技術・予測技術の高度化、気象現象・災害の特性の変化、社会基盤・制度の変化など、気象分野を取り巻く環境というものは大きく様変わりしています。これからの時代の気象災害に備えるためには、平成 30 年間における各分野の変化を振り返り、最新の知見について正しく理解しておくことが重要となるでしょう。そこで、今回の講演会では、「平成 30 年間の振り返り」として、気象予測、気象災害、気候変動、気象解説の各分野について、平成 30 年間の変遷や、新時代の展望を紹介していただきます。奮ってご参加くださいますようお願い

いたします。

**プログラム：**

- 13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明
- 13:40-14:25 「平成 30 年間の気象予測技術の変遷」  
室井ちあし（気象庁）
- 14:25-15:10 「気象災害/極端現象の変化」 加藤輝之（気象庁）
- 休憩
- 15:20-16:05 「地球温暖化で異常気象はどう変わるか？」 渡部雅浩（東京大学）
- 16:05-16:50 「伝え手側の変化」 南利幸（NHK 気象キャスター）
- 16:50-16:55 閉会挨拶

**問い合わせ先：**黒木志洸（教育と普及委員会）  
TEL：03-3212-8341（内線3309，気象庁数値予報課内）  
E-mail：msj-ed\_2019@metsoc.jp

---

## ジュニアセッションのお知らせ

※下記の趣旨のため、多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しくお願いいたします。

※ジュニアセッション発表者・見学者の参加は無料です。

**日時：**2019年5月18日（土）（大会第4日）11:30～12:30

**場所：**国立オリンピック記念青少年総合センター

（大会ポスター会場）

**主催：**公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

**趣旨：**大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待し、日本気象学会 2019 年度春季大会の開催に合わせて、高校・中学生世代を対象に「ジュニアセッション」を開催します。生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を、専門家の前で発表体験し、意見交換することによって調査・研究を深めてもらうことを主な目的としています。多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しくお願いいたします。

**発表・見学の資格：**高等学校、高等専門学校生（1～3 学年）、中学校の生徒（新卒者含む）個人またはグループ。発表者がいない学校の生徒、教諭、引率者も見学できます。

**発表形態・発表内容：**ポスターセッション形式。内容は気象・気候や大気についての生徒による調査・研究成果。詳細は日本気象学会ホームページ

[https://www.metsoc.jp/about/educational\\_activities/junior\\_session/junior\\_session\\_2019/intro](https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session/junior_session_2019/intro) をご覧下さい。

**参加特典：**

1. 発表者の全員に対し、「発表認定証」を発行します。
2. 日本気象学会ホームページに発表者や発表要旨などを掲載し、顕彰します。
3. 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得たり、また参加者間の交流を深めたりすることができます。
4. 希望者には同日午後に行われる「公開気象講演会」の聴講席を確保します。

**問い合わせ先：**公益社団法人日本気象学会  
教育と普及委員会 ジュニアセッション担当

E-mail：msj-ed\_2019@metsoc.jp（ジュニアセッション担当）

Tel：03-3216-4403 Fax：03-3216-4401（学会事務局）

# 研究会のお知らせ

大会期間中とその前に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

## 第51回メソ気象研究会・台風研究連絡会・第6回観測システム・予測可能性研究連絡会・第12回気象庁数値モデル研究会

日時：2019年5月14日（火）（大会前日）13:30～17:00

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「線状降水帯・台風予報の精度向上に向けて取り組むべき課題」

コンピーナー：加藤輝之（気象庁観測）、伊藤耕介（琉球大学）、本田有機（気象庁数値予報）

内容：交通政策審議会気象分科会において、「2030年の科学技術を見据えた気象業務のあり方～災害が激甚化する国土、変革する社会において国民とともに前進する気象業務～」が2018年8月に提言としてとりまとめられました。その中で、根幹である観測・予測技術の更なる高度化・精度向上（技術開発）が重点的に取り組むべき分野とされ、「半日前からの早め早めの防災対応等に直結する予測精度の向上」及び「数日前からの大規模災害に備えた広域避難に資する台風・集中豪雨などの予測精度向上」が具体的な目標として取り上げられています。そこで、その精度向上に必須である線状降水帯及び台風の予報精度向上に向けて取り組むべき課題を明確にし、議論することを今回のメソ気象研究会、台風研究連絡会、観測システム・予測可能性研究連絡会及び気象庁数値モデル研究会との共催テーマとして取り上げることにしました。

### プログラム：

- 13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明
- 13:40-14:10 「線状降水帯と集中豪雨について」加藤輝之（気象庁観測）
- 14:10-14:40 「第2期SIP課題「国家レジリエンスの強化」にむけた線状降水帯に関する包括的観測実験および予測手法開発プロジェクトの紹介」清水慎吾（防災科研）
- 14:40-15:10 「線状降水帯予測における数値予報の課題」氏家将志（気象庁数値予報）
- 休憩
- 15:30-16:00 「台風進路予測に残された課題」榎本剛（京大）
- 16:00-16:30 「台風強度予報の改善に向けて取り組むべき研究課題」嶋田宇大（気象研）
- 16:30-17:00 「台風進路予報における数値予報の課題」米原仁（気象庁数値予報）
- 17:00-17:30 総合討論

世話人：坪木和久（名大宇地研）、加藤輝之（気象庁観測）、小倉義光（東大気海洋研）

問い合わせ先：加藤輝之（気象庁観測）

E-mail: [teruyuki\\_kato@met.kishou.go.jp](mailto:teruyuki_kato@met.kishou.go.jp)

注意事項：講堂でのご飲食はご遠慮ください。トイレは1Fをご利用ください（名札を提示されるとゲートを

通してもらえます）。

## 極域寒冷域研究連絡会

日時：2019年5月15日（水）（大会初日）18:00～20:00

場所：B会場 309会議室（センター棟3F）

テーマ：南極の広域をより高い精度で観測する

内容：地球温暖化の下、今後の南極の変化は人類の関心事である。西南極の温暖化と氷床の消耗は進んでいるが、南極氷床の主要部である東南極の変化は比較的小さい。しかし、東南極でも変化が起こっていることを示唆するデータがないわけではない。今後の南極の変化を知るためには、広域の、できるだけ正確な観測が必要である。南極は代表的な観測空白域の一つであるが、南極の研究に携わるものが現在どのようにアプローチしているのかを紹介し、今後、学会員から広く協力を得る場としたい。

### プログラム：

1. 最近の南極の気候的变化 平沢尚彦（極地研究所）
2. 南極内陸へのAWSの展開 栗田直幸（名古屋大学）
3. YOPP-SHへの貢献 - より高精度の総観規模循環の把握に向けて - 佐藤和敏（北見工業大学）
4. 無人飛行機で南極を観測する 林政彦（福岡大学）

問い合わせ先：平沢尚彦（極地研究所）

E-mail: [hira.n@nipr.ac.jp](mailto:hira.n@nipr.ac.jp)

## 雲・降水研究会

日時：2019年5月15日（水）（大会初日）18:00～20:00

場所：C会場 310会議室（センター棟3F）

テーマ：「巻雲観測」

内容：巻雲は、その光学特性や微物理特性によって、対流圏界面付近の雲放射や水輸送を介して地球大気の熱・水・物質循環に関与しており、これらの機構解明のために、気球や航空機による直接観測やリモートセンシングによる観測が行われてきました。近年では、ますます多様化する衛星観測データをもとに、巻雲の光学・微物理特性のみならず素過程にまで迫る研究も進められています。

本研究会では、雲粒子ゾンデによる観測・解析に取り組んでおられる折笠成宏氏（気象研）と、衛星観測データに基づく雲特性解析を手がけておられる岩淵弘信氏（東北大）をお招きし、巻雲内の雲粒子成長に焦点をあててお話しいただくとともに、室内実験やモデリングとの連携、将来展望に関する視点も含め議論します。

### プログラム：

1. 趣旨説明
2. 「巻雲の氷晶発生・成長機構に関する観測と実験」折笠成宏（気象研）
3. 「ひまわり8号の高頻度観測データを用いた巻雲のラ



「イフサイクルの解析」岩渕弘信（東北大）  
問い合わせ先：橋本明弘（気象研究所）  
E-mail: [ahashimo@mri-jma.go.jp](mailto:ahashimo@mri-jma.go.jp)

## 第5回気象学史研究会

日時：2019年5月17日（金）（大会第3日）18:00～20:00

場所：B会場 309会議室（センター棟3F）

コンビーナ・司会：三上岳彦（首都大学東京名誉教授）

テーマ：20世紀の気候変動と人為的エアロゾルの影響

内容：今回の気象学史研究会は、気候変動に大きな影響を与えるエアロゾルの問題を、特に人為的エアロゾルの大量放出が起きた20世紀に注目して取り上げます。地球大気の大気熱収支について観測と理論から長く考察して来られた大村 纂氏には20世紀気候変化の中でのエアロゾルの役割について、熱収支をその重要な入力である日射量の直接測定から考察して来られた早坂氏には、日射量の変動実態と人為起源エアロゾルとの関連についてご講演をいただきます。これらの講演を通じて、20世紀における人間活動とそ

の気候への影響、さらにはそれらに対する人類の認識の変遷をも考察する契機になればと考えます。

本会合は気象学史研究に関心を持つ、より多くの方の間の情報・意見交換をうながすため、学会員以外の方にも広く参加を呼びかけて開催いたします。

### プログラム：

1. 「人為的気候変化要因として重要な温室効果ガスの兄弟：エアロゾル -熱収支気候学の発展の中から-」 大村 纂（スイス連邦工科大学チューリッヒ校名誉教授）
2. 「中国・日本の日射量の長期変動とエアロゾル」 早坂忠裕（東北大学）

問い合わせ先：山本哲（気象庁観測課）

TEL 03-3212-8341（代表）

メールでのお問い合わせは気象学史研究連絡会ウェブサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

---

## リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して、会場内にリクルートブースを設ける予定です。これは、民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き、気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて、彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です。参加予約手続きは不要です。ブースでは、ポスター発表時間および昼休みをコアタイムとして、企業担当者が対応します。リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです（2019年3月18日現在）

アプライド株式会社  
株式会社気象工学研究所  
気象情報通信株式会社  
クロスイメージング株式会社  
株式会社工学気象研究所  
株式会社構造計画研究所  
株式会社日本エレクトリック・インスルメント  
日本海洋事業株式会社  
日本気象株式会社  
一般財団法人日本気象協会

---

## 2019年度秋季大会の予告

2019年度秋季大会は、2019年10月28日（月）～10月31日（木）に福岡国際会議場で開催される予定です。大会告示は「天気」5月号に掲載予定です。なお、秋季大会の講演申し込み締め切りは2019年7月頃となる予定です。